



学校教育目標 基本的生活習慣の確立のもと共生の精神と探求心に満ちた心身共に健康な生徒の育成

～平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後に取り組むについて～

1. 学力調査結果の分析

		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成25年度	本市	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国	76.4	67.4	63.7	41.5	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	77.2	47.6	62.4	54.4	48.6
	全国	79.4	47.6	67.4	59.8	51.0
平成27年度	本市	73.9	63.1	61.6	37.7	50.0
	全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに上回っていた。 ・書く能力、読む能力がついてきた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・手紙の書き方を理解して書く問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・文脈に則して漢字を正しく書く問題の正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をわずかに上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・効果的な資料を作成し、活用する問題では正答率が低かった。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・方程式を解く場面において等式の性質の用いかたについて答える問題の正答率が低かった。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・与えられた情報から必要な情報を選択し、的確な処理をする問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回っていた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・理由を説明する問題の正答率が特に高かった。	
	努力が必要な問題	・状況を推論する問題の正答率が低かった。	

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

(1) 家庭学習習慣に関する分析

- ・ 学習塾や家庭教師で勉強をしている生徒の割合は、全国平均を下回っている。学習時間についても一般的に「短い」、又は「しない」と回答した生徒が5割近くであり、家庭学習の充実がのぞまれる。また家庭学習の中で、一日の授業で習った内容を復習する習慣がある生徒も少なく、家庭学習の仕方について指導していく必要がある。

(2) 生活習慣等に関する分析

- ・ 学校に行くことを楽しみとしている生徒が9割近くに上る反面、1割弱の生徒が「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答している。
- ・ 「自分にはよいところがある」という問いについて、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合が高い。「そうではない」と回答した生徒も2割弱もいることをしっかりと考慮し、自尊感情を高められるような取り組みを進めていきたい。
- ・ ほぼ全員がいじめについて、いけないことだと認識している。

3. 調査結果を受けての課題に関する今後の取組

(1) 教科に関する取組

- ◎ 朝自習を5教科(国、数、社、理、英)で行い、教科時間、総合的な学習の時間などにおいて、「朝自習テスト」を実施し、基礎学力の定着を図る。
- ◎ PTAや地域の方々の協力のもとに3年生の「ひまわり学習塾」と1、2年生の「花尾塾」を開き、希望生徒を対象に週2回実施し、3年生の英語・数学における基礎、基本の徹底、1、2年生の基礎学力の定着を図っている。
- ◎ 朝読書の推進、教科による学校図書館の利用を積極的に行い、読書活動を活発にするとともに読みとる力を育成する。教科において課題について「考える」、「書く」、「話し合う」、「発表する」活動を重視し、思考力・表現力を高めることを通して言葉の力を育てる。

(2) 家庭生活習慣に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(時間、学年別・教科別内容)
 - ・ 各教科において宿題や課題を生徒に課し、教科担任と学級担任が連携して提出の徹底を図る。
 - ・ 考査前に家庭学習計画を検討させ、毎日学級担任が確認指導を行う。
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭学習の方法、家庭学習時間の確立など家庭学習について指導を行う。さらに家庭学習マイスター賞への応募を図る。
 - ・ 冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等に関する保護者への周知
 - ・ 学校便りや学校HPを通して結果分析を伝えるとともに、家庭教育学級や学年懇談会等で内容を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。